

国立国会図書館 調査及び立法考査局

Research and Legislative Reference Bureau
National Diet Library

論題 Title	標題紙、はしがき、目次、プログラム、奥付
他言語論題 Title in other language	Foreword / Contents / Program
著者 / 所属 Author(s)	山崎 治 (YAMAZAKI Osamu) / 国立国会図書館調査及び立法考査局長
書名 Title of Book	コロナ時代のソーシャルメディアの動向と課題 科学技術に関する調査プロジェクト報告書 (Trends and Issues of Social Media in the Era of Coronavirus)
シリーズ Series	調査資料 2020-4 (Research Materials 2020-4)
編集 Editor	国立国会図書館 調査及び立法考査局
発行 Publisher	国立国会図書館
刊行日 Issue Date	2021-03-25
ページ Pages	—
ISBN	978-4-87582-875-4
本文の言語 Language	日本語 (Japanese)
摘要 Abstract	—

* この記事は、調査及び立法考査局内において、国政審議に係る有用性、記述の中立性、客観性及び正確性、論旨の明晰（めいせき）性等の観点からの審査を経たものです。

* 本文中の意見にわたる部分は、筆者の個人的見解です。

科学技術に関する調査プロジェクト2020報告書

コロナ時代の ソーシャルメディアの 動向と課題

2021年3月



国立国会図書館
調査及び立法考査局

科学技術に関する調査プロジェクト 2020 報告書

コロナ時代のソーシャルメディアの 動向と課題



2021 年 3 月

国立国会図書館
調査及び立法考査局

- * 本報告書は、国政審議の参考に供するために取りまとめたものです。
- * 本報告書の記事は、調査及び立法考査局内において、国政審議に係る有用性、記述の中立性、客観性及び正確性、論旨の明晰性等の観点からの審査を経たものです。
- * 本報告書の記事のうち、意見にわたる部分は筆者の個人的見解です。
- * 本報告書の記事を全文又は長文にわたり抜粋して転載する場合には、事前に調査及び立法考査局調査企画課 (bureau@ndl.go.jp) に御連絡ください。



ファシリテータ 平 和博氏



パネリスト 鳥海 不二夫氏



パネリスト 三浦 麻子氏



パネリスト 曾我部 真裕氏



パネリスト 板倉 陽一郎氏



パネリスト 久木田 水生氏



コメンテータ 水谷 瑛嗣郎氏

はしがき

国立国会図書館の「科学技術に関する調査プロジェクト」は、平成 22（2010）年度に発足しました。科学技術政策について国会で議論を行う際によりどころとなるよう正確かつ客観的な情報を提供することを目指し、特定のテーマの下に外部の学識経験者の方々と連携して調査を行い、その成果を報告書にまとめています。

令和 2（2020）年度のプロジェクトでは、「ゲノム編集の技術と影響」、「高齢者を支える技術と社会的課題」及び「コロナ時代のソーシャルメディアの動向と課題」の 3 つのテーマについて調査を実施しました。

本報告書は、令和 2 年 11 月 12 日にオンライン開催したシンポジウム「コロナ時代のソーシャルメディアの動向と課題」の記録集です。このシンポジウムは、前年度における文献を中心とした調査「ソーシャルメディアの動向と課題」の成果も踏まえつつ、新型コロナウイルスの感染拡大に伴って生じたフェイクニュースの流布とユーザ行動に関するデータ分析を題材とし、社会心理学、憲法学、技術倫理等の様々な観点から議論することを通じて、ソーシャルメディアの課題を多面的に明らかにすることを目指しました。

平和博氏の問題提起の後、それぞれ専門分野を異にする鳥海不二夫氏、三浦麻子氏、曾我部真裕氏、板倉陽一郎氏、久木田水生氏に幅広い観点から報告していただきました。各報告への水谷瑛嗣郎氏によるコメントに続き、平氏をファシリテータとしてパネルディスカッションを行いました。パネルディスカッションにおいては、ソーシャルメディア上の情報拡散や「ネット世論」の実態、誹謗中傷や「フェイクニュース」問題と各国における対策、プラットフォームによる「検閲」の在り方と表現の自由、倫理問題、メディア環境とリテラシーといった課題につき議論されました。本報告書では、7 氏の報告とコメント、パネルディスカッションの記録に加えて、平氏による解説を掲載しております。

本報告書が科学技術政策のみならず、関連分野に関する国政審議、議員の皆様の問題理解のお役に立つことを、またこの問題に関心を寄せる方々に広く活用されることを心から願うものです。

令和 3 年 3 月

国立国会図書館 調査及び立法考査局長 山崎 治

コロナ時代のソーシャルメディアの動向と課題

目 次

はしがき	山崎 治	
プログラム		1
開会挨拶	樋山 千冬	5
開催趣旨説明	石渡 裕子	7
プレゼンテーション資料		7
報告		11
第 I 部 パネリスト報告		
【問題提起】		
コロナ時代の社会基盤としてのソーシャルメディア	平 和博	13
プレゼンテーション資料		13
報告		21
【パネリスト報告 1】		
データから見るデマ拡散の構造	鳥海 不二夫	25
プレゼンテーション資料		25
報告		33
【パネリスト報告 2】		
社会心理学によるデマ・炎上・差別の背景	三浦 麻子	37
プレゼンテーション資料		37
報告		47
【パネリスト報告 3】		
プラットフォームと憲法上の論点	曾我部 真裕	51
プレゼンテーション資料		51
報告		55
【パネリスト報告 4】		
ソーシャルメディア規制の現状と課題	板倉 陽一郎	57
プレゼンテーション資料		57
報告		65
【パネリスト報告 5】		
コロナ時代のソーシャルメディアの倫理	久木田 水生	69
プレゼンテーション資料		69
報告		81
パネリスト報告へのコメント	水谷 瑛嗣郎	85
プレゼンテーション資料		85
報告		89
第 II 部 パネルディスカッション		91
解説		
民主主義社会のレジリエンスを維持するために	平 和博	111

Trends and Issues of Social Media in the Era of Coronavirus

Contents

Foreword	YAMAZAKI Osamu	
Program		1
Opening	HIYAMA Chifuyu	5
Aim of the symposium	ISHIWATARI Hiroko	7
Presentation		7
Transcript		11
Part I Presentations by the panelists		
Social Media as Social Infrastructure in the Era of Coronavirus	TAIRA Kazuhiro	13
Presentation		13
Transcript		21
Data Analysis of the Structure of Dissemination of Demagogy	TORIUMI Fujio	25
Presentation		25
Transcript		33
Background of Demagogy, Flaming, and Discrimination from a Sociopsychological Perspective ...	MIURA Asako	37
Presentation		37
Transcript		47
Platforms and Constitutional Points in Question	SOGABE Masahiro	51
Presentation		51
Transcript		55
Current Status and Issues of Regulations of Social Media	ITAKURA Yoichiro	57
Presentation		57
Transcript		65
Ethics of Social Media in the Era of Coronavirus	KUKITA Minao	69
Presentation		69
Transcript		81
Comments on the panelists' presentations	MIZUTANI Eijiro	85
Presentation		85
Transcript		89
Part II Panel Discussion		91
Commentary		
To Maintain the Resilience of Democratic Societies	TAIRA Kazuhiro	111

科学技術に関する調査プロジェクト 2020 シンポジウム

コロナ時代のソーシャルメディアの動向と課題

日 時： 令和2年11月12日（木） 14:00～17:00
形 式： Web 会議システムによるリモート開催
主 催： 国立国会図書館 調査及び立法考査局

プログラム

開会挨拶（樋山千冬）

開催趣旨説明（石渡裕子）

【問題提起】 コロナ時代の社会基盤としてのソーシャルメディア（平和博）

【パネリスト報告1】 データから見るデマ拡散の構造（鳥海不二夫）

【パネリスト報告2】 社会心理学によるデマ・炎上・差別の背景（三浦麻子）

【パネリスト報告3】 プラットフォームと憲法上の論点（曾我部真裕）

【パネリスト報告4】 ソーシャルメディア規制の現状と課題（板倉陽一郎）

【パネリスト報告5】 コロナ時代のソーシャルメディアの倫理（久木田水生）

パネリスト報告へのコメント（水谷瑛嗣郎）

パネルディスカッション

ファシリテータ

平 和博（桜美林大学リベラルアーツ学群教授、国立国会図書館客員調査員）

早稲田大学卒業後、朝日新聞入社。社会部、シリコンバレー駐在、科学グループデスク、編集委員、IT 専門記者（デジタルウォッチャー）を担当。2019 年から桜美林大学教授、2020 年から国立国会図書館客員調査員。

主要著作：『悪の AI 論 あなたはここまで支配されている』（朝日新書、2019 年）、『メディアは誰のものか 「本と新聞の大学」 講義録』（共著、集英社新書、2019 年）、『信じてはいけない 民主主義を壊すフェイクニュースの正体』（朝日新書、2017 年）、『朝日新聞記者のネット情報活用術』（朝日新書、2012 年）。

パネリスト

鳥海 不二夫（東京大学大学院工学系研究科准教授）

東京工業大学大学院理工学研究科機械制御システム工学専攻博士課程修了、博士（工学）。名古屋大学情報科学研究科助手、同助教を経て、2012 年から現職。計算社会科学、人工知能技術の社会応用などの研究に従事。「科学技術への顕著な貢献 2018（ナイスステップな研究者）」。

主要著作：『強い AI・弱い AI 研究者に聞く人工知能の実像』（丸善出版、2017 年）、『人狼知能 だます・見破る・説得する人工知能』（共著、森北出版、2016 年）、『ソーシャルメディアと〈世論〉形成 間メディアが世界を揺るがす』（共著、東京電機大学出版局、2016 年）。

三浦 麻子（大阪大学大学院人間科学研究科教授（社会心理学））

大阪大学大学院人間科学研究科助手、神戸学院大学人文学部准教授、関西学院大学文学部教授、大阪大学大学院基礎工学研究科特任教授を経て、2019年4月から現職。博士（人間科学）。コミュニケーションやインタラクションが新しい「何か」を生み出すメカニズムの解明に関心を持ち、インターネット上の人間行動に関する研究を数多く手がける。

主要著作：『グラフィカル多変量解析 新装版』（現代数学社、2020年）、『なるほど！心理学研究法』（北大路書房、2017年）、『人文・社会科学のためのテキストマイニング 改訂新版』（共著、誠信書房、2014年）。

曾我部 真裕（京都大学大学院法学研究科教授（憲法・情報法））

京都大学大学院法学研究科博士課程（中退）、司法修習生（第54期）。京都大学大学院法学研究科講師、准教授を経て、2013年から現職。放送倫理・番組向上機構（BPO）放送人権委員会委員、朝日新聞論壇委員、情報法制研究所（JILIS）理事、情報法制学会（ALIS）代表など。

主要著作：『憲法論点教室 第2版』（編著、日本評論社、2020年）『情報法概説 第2版』（共著、弘文堂、2019年）、『憲法Ⅰ 総論・統治』（共著、日本評論社、2016年）、『憲法Ⅱ 人権』（共著、日本評論社、2016年）、『反論権と表現の自由』（有斐閣、2013年）。

板倉 陽一郎（弁護士（ひかり総合法律事務所、2016年からパートナー弁護士））

京都大学大学院情報学研究科社会情報学専攻修士課程修了、慶應義塾大学法務研究科（法科大学院）修了。IoT推進コンソーシアム・データ流通促進WG委員（2016～）、理化学研究所革新知能統合研究センター社会における人工知能研究グループ客員主管研究員（2017～）、総務省・情報通信法学研究会構成員（2017～）、国立情報学研究所客員教授（2018～）、消費者庁・デジタル・プラットフォーム企業が介在する消費者取引における環境整備等に関する検討会委員（2019～）、大阪大学社会技術共創研究センター招へい教授（2020～）等。主要著作：『キャッシュレス決済と法規整』（共著、民事法研究会、2019年）、『データ戦略と法律：攻めのビジネスQ&A』（編著、日経PB、2018年）、『個人情報保護法のしくみ』（共著、商事法務、2017年）。

久木田 水生（名古屋大学大学院情報学研究科准教授）

京都大学大学院文学研究科博士後期課程修了、博士（文学）。名古屋大学大学院情報科学研究科准教授を経て、2017年から現職。専門は情報の哲学、技術哲学、人文情報学など。主要著作：『人工知能と人間・社会』（共編著、勁草書房、2020年）、『ロボットからの倫理学入門』（共著、名古屋大学出版会、2017年）、『AIがつなげる社会 AIネットワーク時代の法・政策』（共著、弘文堂、2017年）。

コメンテータ

水谷 瑛嗣郎（関西大学社会学部准教授）

慶應義塾大学大学院法学研究科公法学専攻博士課程単位取得退学、博士（法学）。帝京大学法学部助教を経て、2019年4月から現職。慶應義塾大学グローバル・リサーチ・インスティ

テュート客員所員、一般財団法人情報法制研究所上席研究員。専門は、憲法学、メディア法学。デジタルメディア時代における報道機関の憲法上の機能と地位について研究を行っている。最近では、表現活動の「場」としてのオンライン・プラットフォームについても、憲法学の観点から研究中。

主要著作：『AIと憲法』（共著、日本経済新聞出版社、2018年）、『憲法のこれから』（共著、日本評論社、2017年）、『憲法判例からみる日本 法×政治×歴史×文化』（共著、日本評論社、2016年）

※ 本報告書の編集作業は、国立国会図書館調査及び立法考査局文教科学技術調査室・課及び科学技術室が担当した。

調査資料 2020-4
科学技術に関する調査プロジェクト 2020 報告書
コロナ時代のソーシャルメディアの動向と課題

令和 3 年 3 月 25 日発行
ISBN 978-4-87582-875-4

編集 国立国会図書館調査及び立法考査局
発行 国立国会図書館

〒100-8924 東京都千代田区永田町 1 丁目 10 番 1 号
電話 03 (3581) 2331
E-mail bureau@ndl.go.jp

ISBN 978-4-87582-875-4
Research Materials 2020-4

Science and Technology Research Project 2020
**Trends and Issues of Social Media
in the Era of Coronavirus**

Research and Legislative Reference Bureau
National Diet Library
Tokyo 100-8924, Japan E-mail : bureau@ndl.go.jp

リサイクル適性 (A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。